

# 令和3年 9月の思いやり通信

## 目次

- (1)  太陽光、2030年最安に 経産省試算 発電コスト8.2～11.8円
- (2)  山火事多発 温暖化加速か 高温乾燥で自然発火、「負の連鎖」危惧
- (3)  気温1.5度上昇 10年早く IPCC報告「2021～2040年に」
- (4)  地熱の本格調査 国立公園内で 安定供給に寄与



## (1) 太陽光、2030年最安に 経産省試算

発電コスト 8.2～11.8円

\*経済産業省は、2030年時点の1キロワット時あたりの発電コストが事業用の太陽光で8.2～11.8円になるとの試算を発表。

・他の電源に比べて最もコストがかかりません。

\*今回の試算は電気を安定して届けるためのコストを含んでいません。

(2021年8月4日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (2) 山火事多発 温暖化加速か

高温乾燥で自然発火、「負の連鎖」危惧

\*記録的な熱波に見舞われた北米やロシアで、大規模な山火事が広がります。

\*高い気温と少雨で草木が乾燥して燃えやすくなっているうえに、落雷が増えて自然発火する事例も目立ちます。

\*6月末の記録的な熱波の後、米国やカナダでは大規模な山火事が相次ぎます。

\*両国以上に深刻なのがロシア。

・平年を大きく上回る高い気温が続くシベリアや極東で山火事が拡大しており。現在も1万M2近い森林が燃えています。

\*気温の上昇によって大気が不安定になりやすく、落雷が増えることも懸念材料。

・この10年間で北極圏での落雷数は約3倍に。

・気温が1度上がると落雷は約4割増えます。

- \*ツンドラの下には永久凍土があり、山火事は本来なら起きません。
- \*永久凍土には、大気中に含まれるCO<sub>2</sub>やメタンのほぼ2倍の炭素が閉じ込められています。
- ・山火事が続くとこれらが一気に放出され、温暖化を促す負の連鎖が広がる恐れ。

#### ☆山火事の原因

- \*発生原因には人為的なものと自然発火があります。
- \*日本では年1000件以上起き、火の不始末がほとんど。
- \*雨が少なく乾燥する地域では、自然発火が起きます。



#### ☆地球温暖化が背景

- ①高温、少雨が続く ⇒ ②草木が水分を失う ⇒ ③落雷などで着火 ⇒
- ④上昇気流に伴う強い風で拡大 ⇒ ⑤二酸化炭素が大量発生 ⇒
- ⑥永久凍土が融解、温暖化ガスを放出

(2021年8月9日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



### (3) 気温 1.5 度上昇 10 年早く

#### IPCC 報告「2021～2040 年に」 パリ協定達成難しく

- \*国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、産業革命前と比べた世界の気温上昇が2021～2040年に1.5度に達するとの予測を公表。
- ・2018年の想定より10年ほど早くなります。
- \*人間活動の温暖化への影響は「疑う余地がない」と断定。
- \*パリ協定は気温上昇2度未満を目標とし、15度以内を努力目標とします。
- \*2021～2040年平均の気温上昇は、2050～2060年に実質排出ゼロが実現する最善の場合でも1.5度になります。
- \*平均海面水位は、直近120年で0.2M上がりました。
- ・気温上昇を1.5度以内に抑えても、2100年までに今より0.28～0.55M上がると予測。

#### IPCC 報告書、国際交渉に影響力

- \*気候変動に関する最新の研究成果を世界の研究者の協力のもとで整理し、定期的に報告書をまとめる国連組織。

(2021年8月10日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4)  **地熱の本格調査 国立公園内で 安定供給に寄与**

**発電量、2030年度に1%目標**

\*経済産業省は地熱発電を増やすため、国立公園内などに適地を見つける調査を本格化。30箇所を現地調査。

\*地熱発電で2030年度に総発電量の1%を賄う計画。

\*地熱発電の適地の8割は国立公園などの自然公園内。

\*日本の地熱の資源量は、米国とインドネシアに次ぐ世界3位。

(2021年8月26日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

